

きょう実現した

ルカによる福音 4:21-30

（そのとき、ナザレの会堂で預言者イザヤの書を読まれた）イエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」イエスは言われた。「きっと、あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」そして、言われた。「はっきり言うておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。確かに言うておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、その地方一帯に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたが、エリヤはその中のだれのもとにも遣わされなくて、シドン地方のサレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。また、預言者エリシャの時代に、イスラエルにはらい病を患っている人が多くいたが、シリア人ナアマンのほかはだれも清くされなかった。」これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。

説教

最近のニュースによれば、土星の一日は10時間33分38秒です。太陽系の惑星の中で土星だけが一日の長さがわからなかった、つまり土星の自転が計測できなかったのですが、探査衛星のデータを分析してわかったそうです。かりにわたしたちが土星でくらしていれば、1日は地球でいう半日になるわけです。一日が二倍になる、一日で二日ふける、お得なような損したような気分になります。地球の時間＝地上の時間を基準にすれば宇宙の時間も長

かったり短かったりするのでしょうか。

イエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。ルカ4:21

さて、イエスが語った「今日」とはいつのことでしょう。

おおむかしのイエスが故郷ナザレのユダヤ教の会堂でイザヤ書を朗読されたその日をいうのでしょうか。単純に地上の出来事として答えるならばイエスがナザレで朗読された日で正解です。でも、みことばを聴く観点からすれば不正解です。イエスが「今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と語る今日とは神の時間でいう今日です。神の時間ってなに？と聞かれると困るのですが、神を信じる人ならば時間にも人の時間とはちょっと違う、いや、ずいぶん違う神の時間があることも想像できるのではないのでしょうか。きょうの朗読ではナザレの人々はイエスのいった「今日」を理解できずにイエスを崖に連れ出し、突き落とそうとしています。

神の時間はもちろん一日が24時間というしぼり（これは地上、地球の時間です）はありません。今が、いまこの時が今日なのだという説教もよくありますが、これじゃあ予備校のタレント先生がやっていることと似たり寄ったりになってしまいます。

きょうはもう2月3日です。2019年も12分の1は過ぎてしまいました。一日は長いけれどひと月はアツという間だなあ、なんていっているとボーっと生きてんじゃねえよ、と叱られてしまいそうです。

イエスさまがいわれた「今日」とは神の時間の「今日」、わたしたちが普通に生きている「今日」とは違う時間の「今日」です。

イエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。ルカ4:21

わたしたち一人ひとりがけっしてひとりよがりではなく神の時間と同調できますように。そして、すべての人の救いが実現しますように。
